

科学研究費助成事業（基盤研究（S））研究進捗評価

課題番号	19100004	研究期間	平成19年度～平成24年度
研究課題名	実空間における複合感性和状況理解の多様性のロボティクスのモデル化とその応用	研究代表者 (所属・職)	加藤 俊一（中央大学・理工学部・教授）

【平成22年度 研究進捗評価結果】

評価	評価基準
A+	当初目標を超える研究の進展があり、期待以上の成果が見込まれる
○	A 当初目標に向けて順調に研究が進展しており、期待どおりの成果が見込まれる
	B 当初目標に対して研究が遅れており、今後一層の努力が必要である
	C 当初目標より研究が遅れ、研究成果が見込まれないため、研究経費の減額又は研究の中止が適当である
<p>(意見等)</p> <p>本研究は、視覚、聴覚、触覚にまたがる複合的な感性の多様性をモデル化し、それを実世界でのサービスに具体化するための技術開発を行うものであり、個々の知覚レベルの解明に頼らずに、グラフ集合解析とエントロピー概念に基づくトップダウン的なアプローチで研究を行い、幾つかの重要な進展があり、研究は概ね順調であると考えられる。</p> <p>例えば、複合感性に関する知覚過程の研究については、教示学習の負担を軽減するアルゴリズムの開発、トップダウン的なアプローチによる感覚的特徴の優先評価分析、物理的・身体的な状態計測と個人の文脈に基づく主観的な状況認識をつなぐモデル化手法の開発などに成功している。</p> <p>これまでの研究によって得られた基礎理論・アルゴリズムをもとに実世界でのサービスを実現していくために、これらの実証的評価を精力的に進めること及び国際的なトップレベルの学術誌や国際会議に積極的に成果発表を行う努力を今後期待したい。</p>	

【平成25年度 検証結果】

検証結果	研究進捗評価結果どおりの研究成果が達成された。
A	<p>学術面では、人間に心理的・身体的な負担をかけずに複合的な感性を計測・理解・モデル化する技術で、当初の目標を達成する研究成果を上げた。</p> <p>また実証面でも、店舗内での消費者の購買支援システムについて、実際の店舗とサイバー空間上でのウェブショッピングのプロトタイプを試作し比較を行うなど、研究成果を実世界のサービスへと結びつける実証評価を行った点が高く評価できる。</p> <p>研究成果の国際的な発信については、雑誌論文などの成果発表でまだ十分でない側面もみられるが、結果が得られるまでに一定の期間を要することから、継続的な努力と今後の成果を期待したい。</p>